

環境課題発見し解決へ

白糠高で新科目の授業始まる

【白糠】白糠高校（佐野 住夫校長）は12日、今年度から新しく開講した科目「環境鮮麗学」の第1回目となる授業を同校で行い、1年生18人が環境課題などについて学んだ。

同科目は、高校3年間で通して地球環境や社会と自分のつながりを認識して、意志や行動を決める人間になることを目的とする。町の再生エネルギーなど地域の特色を授業に取り入れ、



磁石が浮いているように見える「超伝導現象」を体験する生徒ら（白糠町役場提供）

身の周りの環境課題を発見し、解決策を考えていく。

この日の授業では、町地域教育コーディネーターの入川暁之氏が講師となり「環境って何だろう」をテーマに授業を展開。入川氏は「環境とはつながりであり、自分自身も環境の一部である」と説明し、「そのつながりや循環を失うと環境問題が発生する」と強調。さらに、「見えていないものに関心を向けることが重要」と訴え、その検証として磁石が見えない磁力線によって浮いているように見える「超伝導現象」と呼ばれる実験を行った。

生徒らは「つながりや循環が、環境問題の原因となることを知れてよかった」と話していた。（森崎博史）